生きものたちと、みどりとみすの豊かなまち

大田区

自然ふれあいマップ

── 秋・冬編 ──

秋から冬の大田区では、黄色や赤く紅葉した葉が見られる一方で、冬でも緑の葉をつけた木々が見られます。紅葉といってもその色の変化は様々です。また、足元にはいろいろな形の木の実が落ちています。この機会にひとつ拾って、よく観察してみませんか。

街中の池や水辺、多摩川では多くの種類の冬鳥が羽を休めています。水辺の鳥は比較的ゆっくり観察することができるので、野鳥観察をこれから始めようとする人には絶好の季節です。このマップ片手に、自然とのふれあい散歩をしてみてください。新しい発見が必ずあるはずです。

池のみち

この観察路は、昔から景勝地として「名所江戸百景」（広重画）や「東京市八名勝」（昭和７年選定）で有名な洗足池を中心にして、近くにある小池とともに景観にすぐれた散策路です。この地域は武蔵野台地の一部である荏原台がいくつもの谷によって樹枝状に刻まれた地形で、その谷地部が池や湿地になっていて、かつて水田かんがいに利用されていました。水辺には多くの野鳥が見られ、生態系豊かな都会の中のオアシスになっています。

海と埋立地のみち

この観察路は、古来より遠浅で波静かな海面を高度経済成長に伴って埋め立てた臨海部にあります。近年の水質の改善により水際線に公園や緑道が整備されてきました。大田スタジアムに隣接するせせらぎの森から東京港野鳥公園、平和の森公園、大森ふるさとの浜辺公園、昭和島、京浜島、そして京浜運河、海老取川に沿った広い地域となっています。現在、ハゼ、ボラ、アユの稚魚やアサリ、シジミ、カニなどが生息し、それをエサとする野鳥も多く生息しています。

雑木林のみち

この観察路は、武蔵野台地特有の雑木林が残り、斜面には崖線の地形を有し、崖下には多くの場所で湧水が見られます。この地域には古来より人が住み、集落が発達したところで、大きな古墳が多摩川台公園を中心につくられています。中原街道から鵜の木付近にはかつての六郷用水が人工の水路として復元され、田園調布せせらぎ公園内の湧水を集めた清流が崖線の緑とともに散策路となっています。

冬といっても寒い日ばかりではありません。風のない晴れた日には、落葉樹の森を散歩してみてください。太陽の恵みを体全体で受け止めていると、遠方の山や海の景色がすぐ近くに感じられるかもしれません。ついでに葉っぱやどんぐり探しを楽しんでみてはどうでしょうか。

縄文のみち

この観察路は、本門寺公園、池上本門寺社寺林、池上梅園をめぐる数多くの坂のある散策路です。この地域の歴史は古く、縄文時代から弥生時代まで考古学上注目すべき貝塚、住居跡などの遺跡があり、古墳時代の横穴古墳などの遺跡も見られます。急な崖線と寺院、墓地などが広い面積を占めていたために自然に近い森が残されており、大田区で最大の常緑樹の樹林帯を形成し、生物多様性を維持するとともに、環境上や防災上の多くの機能を果たしています。

川と干潟のみち

この観察路は、多摩川の六郷橋から下流域にあり、広い河川敷と広範囲のアシ原が特徴で、東京湾の潮汐の影響による地形的にめずらしい河口干潟が発達しています。この地域は古代において、わが国の河川下流の低湿地が稲作の重要な場所であった原風景を残しています。干潟には貝やカニなどの底生生物が豊富に生息し、それをエサとする魚や野鳥が数多くみられ、アシ原とともに生態系の宝庫となっています。